

産学連携実績紹介フォーム

1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科等)	神奈川工科大学 情報学部情報工学科	実施時期	2013 年度(後期) (赤字は更新情報)
対象学年・学期・人数	3 年次・後期・66 名(履修登録時)		
講座名	情報技術者概論		
連携企業・団体	一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会(略称:KIA)		
支援・連携の類型	連携団体の作成テキストとハンドブックにより講座を実施(講師派遣型)		
講座の概要・特徴	<p>SEの仕事について講師の経験を踏まえて解説し、理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして視野に捉えて考察する場を提供する。</p> <p>講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使った授業でSEの仕事に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話を受講生に紹介することで、業界の現状を正しく伝える。</p>		
産学連携検討の背景	2012 年度より本学での新教育体系がスタートしたことに伴い、1, 2 年次の共通基盤教育科目群のキャリア系科目に連結する形で、専門科目としての SE 講座の導入を行った。全 15 回授業のうち、14 回を神情協講師による講義として実施し、1 回を本学教員による総合演習として実施している。		
連携の狙い、目的・目標	学科専門科目には、将来の進路として SE を想定したものも多く、原理・理論や基本技術に関する教育はカバーできる。しかし、業界内の動向や最新情報、また、企業人として現場で求められる資質や今後注目される技術に関しては、直接、最前線からの話題を提供していただくことが有意義だと考える。その目的達成のためには産学連携が不可欠である。		
連携にあたっての課題・懸念	開講時期が3年後期であるため、現実的には就職活動のスタート時期と一致する。意識向上のためにはよいタイミングであるが、初年度となる 2012 年度では履修者が全体の 30%程度であった。今後、履修者を増やすことが課題である。		

講座の位置づけ 既存講座との関係	SE 講座の各テーマのうち、技術的な内容に関しては3年次後期までの専門科目ですべてカバーしているため、学生自身が学んだ内容が、現実に即していることを確認することが意識向上に役立つと考えている。また、キャリア教育科目として SE 講座を位置付けており、進路決定や就職活動をスムーズに進める上で、学習効果が期待できる。
履修前提条件	履修条件は特に付していない。
授業準備と実施の体制	授業目的や計画については、Webによるシラバスの公開を実施していることに加えて、学内の授業支援システムを利用して、より具体的な授業予定やアナウンスを提示するとともに、毎回の授業で利用するスライド(PPT形式)を授業1週間前から公開している。ノートPCを持参することで、授業中も教室から閲覧可能としている。また、授業内アンケートは印刷したものを毎回配布している。
成績評価の方法	毎回、授業内アンケートに回答してもらい、授業内容に関するノート記述部分を評価対象としている。また、授業最終回に総合演習として、今までの講義内容から得た、キャリア教育的な設問に作文形式で回答してもらい、これらを総合的に評価することで、全体の成績評価としている。

講座の構成(シラバス)	単元と時間配分 (1コマ=90分で実施)	演習・実習	実施担当・役割分担
	第1講 ガイダンス	講義	KIAの講師 大西寿郎様 大学の担当教員 納富一宏
	第2講 SEとは	講義	KIAの講師 加藤孝様
	第3講 SEのマネジメントスキル	講義	KIAの講師 江波戸幸則様
	第4講 情報システムの企画と提案	講義	KIAの講師 新倉勝巳様
	第5講 システム設計の概要	講義	KIAの講師 土屋達哉様
	第6講 システムテストと運用テストの意義	講義	KIAの講師 上野昌之様

第7講 情報サービス産業界の現状	講義	KIA の講師 原田久仁子様
第8講 データベースの知識	講義	KIA の講師 飯島雅様
第9講 ネットワークの知識	講義	KIA の講師 高見沢正己様
第10講 情報セキュリティと個人情報保護	講義	KIA の講師 小坂元 章様
第11講 プロジェクトマネジメント	講義	KIA の講師 田中僚史様
第12講 SE のベーススキルと関連知識	講義	KIA の講師 山本哲男様
第13講 システム化事例紹介	講義	KIA の講師 石川真吾様
第14講 授業全般の総括とまとめ	講義	KIA の講師 大西寿郎様
第15講 まとめ(大学の授業評価など)	講義	大学の担当教員 納富一宏

講座ならびに演習・実習の具体的な進め方	パワーポイントを用いた講義。 教室に備え付けのプロジェクタ
---------------------	----------------------------------

2. 講座実施後の情報

受講者の声（受講目的、修得目標）	<ul style="list-style-type: none"> ・IT 業界の全容がどうなっているのか、IT 業界内にはどんな職種があり、それぞれどんな特徴があり、どんな考え方で動いており、今後はどんな展望を持っているのかを、各業界の内側からの視点での話を聞くため ・現在、授業で学んでいることが現場ではどのように使われているのか知りたい ・IT 業界の話を聴き、就職活動に活かしたい ・将来 SE になりたいと考えているので、SE とは何かについて知りたい
受講者の感想（本講座で得られたもの）	<ul style="list-style-type: none"> ・この業界に必要な能力は技術よりも知識と意識だと思った。 ・IT 知識に関して各専門の方々から学べてよかった。これまで学内講義で学んできたことを実践的な内容も交えて教わったことで、理解が増した機会が多かった。 ・神奈川県内にある企業を知るきっかけになった。 ・この授業全体を通して印象に残った点は、SE に必要なのは、プログラミングスキルや技術に関する知識よりコミュニケーション力であるということです。 ・SE の名を聞いただけでは分かりづらい、プロジェクトの内容やプログラム作成のステップを知ることができて良かった。企業ごとに異なった信条や会社の仕組みを聴くことができ、会社という集合を直に感じることができ、就職活動への良い後押しになった。 ・どんなことをするのか、SE に求められるものは何か、それらをしっかりと教えていただいた点は良かった。 ・今回の全講義で、自分のイメージしていた SE とは違っていたことを教わりました。しかし、本来の SE の仕事を聴いてみて、以前よりも SE に興味を持つことができました。 ・情報サービス産業界の実情やそこで働く人の本音が聞けてよかった ・SE で最も必要なスキルはコミュニケーション能力であることがいかに大事か、多くの事例を使って説明してくれたこと ・質問に丁寧に答えてくれていたのでわかりやすかった。学校の講義とは違って知識だけではなく、実際の現場での話が聞けたことは良かった。毎回、分野ごとに話を聞いて、どの分野でも個人でやる作業は少なくチーム単位で活動することが多いのだと思った。講義の最後の方では就職活動について話してくれるのは知らなかったことをたくさん知れたので良かった。

先生の評価	<p>良かった点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の感想にもあるとおり、企業内での事例や業界の話に対して興味や関心を持ったことは、期待通りのキャリア教育的な効果が見られたという意味で大変よかった。 ・授業内アンケートにおいて、授業内容に関するノート記述部分があり、毎回の授業における成績評価に役立った。 ・情報学部の他の2学科から各1名ずつの履修者があった。今後、さらに他学科からの受講生が増えることを期待したい。 ・本学OBが KIA 講師としておいでいただき、学生の授業への関心度や集中度が高まった点がよかった。 <p>改善を要する点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業の最後にアンケート記述や質疑応答の時間を設けていただいたが、学生からの質問が少なかった。 ・学生は授業における技術内容については、すでに学んでいることが多いので、企業内の具体的な事例や業界の話への比重を高めていただき、学生の興味や関心をさらに引き出すことで、質問数が増えればより活発な授業になるものと思う。 ・本学では、授業開講後、2週間程度経過した時期に履修キャンセル期間を設けている。2013 年度では、途中キャンセルおよび出席数不足での単位修得に至らないケースが若干名見られた。 <p>課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013 年度は履修登録時には初年度より多くの受講生が確保できたが、途中履修キャンセルにより前年度とほぼ同数となった。今後、キャンセルやリタイア対策について検討するとともに、就職活動との連動が可能となるような改善検討を実施していくことが課題である。 ・これまでの成果を次年度にもつなげて行きたい。
企業・団体による評価	<p>講義で学んだ個別の概念や技術が実務の世界でどのように使われているか、各企業や講師の体験をベースにした事例を通して学ぶことに、受講生の多くは価値を見出しているといえる。</p> <p>「毎回、異なった企業の異なった講師が担当する。」という、神情協 SE 講座ポリシーは妥当なものであると考えることができる。学生は全体に大人しく、おおむね真面目な受講態度で取り組んでいた。担当の先生からは、来年度も同様に依頼したい旨の依頼があった。</p>

今後の展望 (継続に向けた課題)	<ul style="list-style-type: none">・産学連携を行うことで、学生のキャリア意識をさらに高めることができるものとする。現行の SE 講座の授業スタイルを維持していただき、情報サービス産業界で活躍できる人材を育てるために協働していきたい。・受講者をさらに確保するために、学科だけでなく、情報学部全体に広めるための取組を実施したい。・学生の進路決定や就職活動がなお一層スムーズにいくよう、学内の関連部署との連携も深めていきたい。
---------------------	---

3. 支援企業・団体からの情報(神情協記入事項)

提供教材・コンテンツ情報	講座名称 : 大学向けSE講座 講義形式 : SE講座講師が独自に作成した教材を元にPPTで講義を行う。		
提供元	神奈川県情報サービス産業協会 (会員企業の認定講師)	費用 (標準価格)	①講座費用(別途調整) ②テキスト有償(SEハンドブック)
支援の目的・目標	SEの業務について講師の経験を踏まえて解説し、仕事内容に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話により、業界の現状と業界が求める人物像を受講生に伝える。 理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして考察いただき、受講生の多くがIT業界に進路を選択をする事を目標とする。		
具体的な支援内容または提供教材の内容	講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使用し講義を行う。 注記:SEハンドブックの詳細は別紙添付。		
講座実施における企業・団体の役割	下記の 14 回の講座を団体が提供し、各回の講師は会員企業より認定されたSE講座講師が実施する。 講義 : 01(ガイダンス) 講義 : 02(SE とは) 講義 : 03(SE のマネジメントスキル) 講義 : 04(情報システムの企画と提案) 講義 : 05(システム設計の概要) 講義 : 06(システムテストと運用テストの意義) 講義 : 07(情報サービス産業界の現状) 講義 : 08(データベースの知識) 講義 : 09(ネットワークの知識) 講義 : 10(情報セキュリティと個人情報保護) 講義 : 11(プロジェクトマネジメント) 講義 : 12(SE のベーススキルと関連知識) 講義 : 13(特別講義、システム化事例紹介) 講義 : 14(授業全般の総括とまとめ)		
企業・団体からの推薦コメント	神情協会員企業の中からSE講座講師審査会で資格認定された講師が各回の講義を行う。 講義は、毎回違う講師(企業)がご自身の経験や実績を踏まえて講義を行うため 13 名(複数企業)の講師の講義を受ける事となる。		

	<p>講師企業には、メーカー系、ユーザー系、独立系等の企業があり、企業規模も大企業から、中小企業さらにはベンチャー企業まで幅広い講師(企業)が担当することとなり、受講生にIT業界の多くの可能性を紹介する。</p> <p>この授業には利用者側の教員も参加頂き、教育に積極的に関与して頂く。</p>
--	--